

Contents

Point of View ——— 1~2

Business Angle ——— 3

Activities ——— 4

【事務局】 〒150-0036 東京都渋谷区南平台町12-6 南平台ベルウット6F
TEL 03-3496-0121 FAX 03-3464-6944 URL http://www.ajec.com/

Point of View

◆ 視点 出版業界はこれからどうなる 長岡義幸氏(出版ジャーナリスト) & 檜森雅美氏(日編協理事長)

出版業界の市場環境は年々厳しさを増し、売上高も7年連続の前年割れとなっています。このため一部からは「出版業はいずれ減りゆく産業ではないか」といった声すら上がっていますが、そんな中でユニークな経営手法で売上げを急速に伸ばし、出版不況をものともしない元気な出版社もあります。今回は業績急伸の出版社13社を徹底取材し、利益を生みだす<仕掛け>と<しくみ>に迫った話題の書「出版をめぐる冒険」(アーク出版刊)の著者・長岡義幸氏(出版ジャーナリスト)と、本書の発行人でもある日本編集制作会社協会理事長の檜森雅美氏に出版業界の将来展望について聞きました。(聞き手:編集部)

出版の旧態依然としたやり方は すでに制度疲労で限界となった

——「出版をめぐる冒険」を刊行した経緯についてお聞かせください。

檜森 編集プロダクションは出版業の企画と編集の一翼を担っている存在です。そのパートナーであり、得意先でもある出版業界がこのところ非常に元気がない。構造不況とも言われていますが、本当にそうなんだろうか。業績が伸びないのは、やり方がまずいだけではないか。そういう問題意識があって、長岡さんに「元気な出版社を取材して、業界全体

を活性化するような本を書いてもらえませんか」とお願いしたんです。

長岡 業界の市場規模を示すデータは取次経由の出版物の売上高で、直販やフリーペーパーなど、新しい市場の数字は拾っていません。私自身は、出版業のマーケットは言われているほど厳しくはないだろうと見ています。問題は旧態依然とした「出版社が作り、取次を経由して書店で売る」といったやり方に制度疲労が見られ、すでに限界となっていることなんです。そこで、新しい本づくりの手法や流通ルートの開発をバネにして大きく伸びている出版社を紹介し、業界全体がそのような革新に目を向けてくれれば、出版業界の未来もまんざら捨てたものではないだろうと思って、取材を開始しました。

——この本では「超元気な版元」として13社を取り上げていますね?

長岡 最初にリストアップした出版社は30社ぐらいあったんです。ただ、経営の内情やその社の独自のノウハウについて深く突っ込んだ取材をさせてもらうのが前提ですから、申し込みの段階で「そんなことまで話す取材には応じられない」と、かなり断られましたね(笑)。



長岡義幸氏(出版ジャーナリスト)

1962年福岡県生まれ。国立福島工業高専卒業、早稲田大学第二文学部3年編入後、中退。出版業界紙「新文化」を経て、現在フリーランス。著書に「物語のある本屋」(共著)、「出版時評ながおかの意見1994-2002」、「わいせつコミック」裁判 松文館事件の全貌」などがある

檜森 取材を終え原稿が上がってから、ボツにしてくれとやってきたところも何社かありました。「そんなことまで明かされたんじゃない、これから商売がやりにくくてしょうがない」と(笑)。長岡さんの筆致がかなり過激だから、この部分削ってくれとか。

長岡 各版元が一番ナーバスになったのは、取次に対する批判のコメントです。新しいルートを開発するといっても、大創出版のように100円ショップでしか売らないというところは別として、何らかの形で取次のルートは通していますから、「言いたいことはいっぱいあるけど、それを書かれちゃうと取次からの風当たりが強くなる」と。「現状を改革しなければ」という意識はあるけど、取次ルートを外して商売が成り立つかと言えば、現実はまだまだそこまでいっていませんからね。(次ページに続く)



檜森雅美氏

日本編集制作会社協会理事長。「出版をめぐる冒険」を刊行したアーク出版の社長でもある

伸びている出版社の共通点は 固定観念にとらわれない発想

——伸びている出版社にはどのような共通点がありますか？

長岡 この本で取り上げたのは比較的新興の小出版社7社と、老舗の中堅6社ですが、それぞれに特徴があり、「これこそが出版の成功モデルだ」とひとくりにできるような共通項はありません。ただ旧来の常識を疑い、固定観念にとらわれない発想を出発点とするということだけは、各社に共通して言えることだと思います。たとえば京都のミネルヴァ書房というところは、厳しいといわれる専門書や学術書のジャンルできちんと利益を稼ぎだしています。あえて流行に背を向け、東京の出版社が取りこぼしてしまうような、地味だけどころりと光る著者やテーマを発掘し、こつこつと版を重ねてロングセラーに仕立て上げていく。杉田啓三社長は「ベストセラーなんか絶対狙わない。みんながベストセラーを狙うこんな時代だからこそ、ニッチが生じて、うちのような出版社に活路が開けてくる。こんないい時代はありませんよ」と話しています。

檜森 児童書のポプラ社は、一昨年、8万8,000円もする子ども向けの「総合百科事典ポプラディア」（全12巻）を発刊して、大成功をおさめました。業界では「百科事典の時代は終わっ

た」と言われていたわけですから、これも常識への反逆です。

長岡 そういう例はたくさんあります。メイツ出版というファミリー向けの地域ガイドブックを出しているところは、素人の父母を中心に集めて取材チームを作ったんですね。地元の情報は地元の間人が一番持っているし、東京のライターが取材しても薄っぺらなものしかできない。問題は父母をどう組織化し、プロに負けない取材力や文章力を発揮させるかだと考えたわけです。具体的な方法論はこの本の中で書いていますが、大手の版元がどこもやらないことをやって成功したわけです。また大創出版は初版の部数が大きければ、定価100円でも本はできるということを実証した。すべては常識を疑うことから出発しているんです。

マーケティングの知識なしでは これからの編集者は務まらない

——常識を疑うという点では、販売方法も各社特徴がありますね？

長岡 本当にテーマとしたかったのは、実はその点なんです。編集者にとって、良い本を作るために心血を注ぐのは当たり前なことなんです。けれども日本の編集者はあまりにも本の売り方やマーケティングに頓着していない。良い本を作りさえすれば自動的に売れていくという、20年も30年も前の出版業界が売り手市場

だけで読者の目に届かないで埋没してしまう。本が本として成立するためには、確実に読者の手に送り

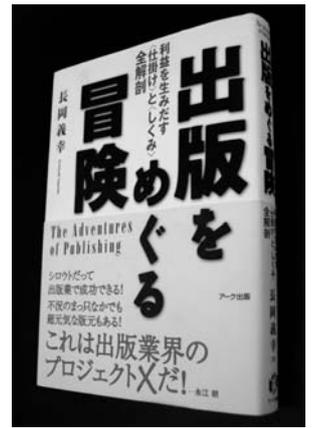
届ける「仕掛け」や「しくみ」が必要なんです。マーケティング抜きには、今後の本の未来は語れません。そういう意味では再販制、委託販売制に守られてきた出版業も、他業界と同様、ようやく商品企画の段階で売り方まで考えるようになったと言えるのかもしれませんが。そういう発想が既存の出版社に不足していたのは事実ですし、これからは編集者も出版営業やマーケティングの知識を深めなければならないと思います。

檜森 30何年間も出版社で編集をやってきて、定年まで一度も取次に行ったことがないという人がいる業界ですからね（笑）。

——ところで「出版をめぐる冒険」の売れ行きはどうですか。

檜森 5月に発行して6月に入るとすぐに増刷し、現在3刷りまでいきました。刊行前には取次から「この手の業界本は3,000部がいいところ」と言われていたので、予想外の売れ行きと言っていいでしょうね。

長岡 それだけ出版業の現在に閉塞感を感じている業界人が多いということでしょうね。皆さん危機感を持って読んでくれていて、「元気づけられた」「やりようによっては出版業はまだまだ伸びる」といった声も多く寄せられています。プロダクションの方々を含め、業界人を元気づけられれば、著者としてたいへん嬉しいです。



「出版をめぐる冒険」（長岡義幸著、アーク出版、2,310円/税込）



「本が本として成立するためには、確実に読者の手に送り届ける『仕掛け』や『しくみ』が必要なんです」（長岡義幸氏、写真左）

◆編集セミナー「紙の正しい知識」に 定員を大幅に超える40名以上が参加

日本編集制作会社協会は去る7月21日午後4時から、東京のJR神田駅近く（中央区日本橋本石町）に本社のある日本紙パルプ商事(株)の2階大会議室で、教育委員会主催による編集セミナー「紙の正しい知識」を開催しました。

「紙」は編集者にとって最も身近な存在でありながら、意外とその基本である紙の種類や特性を知る機会が少ないものです。そこで今回、当協会の賛助会員でもある日本紙パルプ商事のご協力を得て、「紙とはなにか」についての講義や、実際に紙を漉く実技体験会を開催。編集者に必要な紙の基礎知識を勉強しました。

なお紙をテーマにしたセミナーは以前にも開催し、たいへん好評でしたが、今回も参加者募集の案内を配付したところ、1週間後に早くも30名の定員を大幅に上回る40名以上の申込みがあり、紙に対する関心の高さを示す結果となりました。

◆セミナーの内容

セミナーではまず、紙のリサイク

ル状況などを理解するため、「紙のできるまで」という15分ほどのビデオを見ました。その後、日本紙パルプ商事・出版営業本部の有馬健氏を講師に迎え、「紙とは」をテーマに約50分の講義がありました。講義では、紙の定義、紙の歴史、紙の生産量、紙の製法、紙の重量と金額の出し方、紙の種類、紙のサイズと書籍・雑誌、古紙についてなど、紙をめぐるさまざまなテーマをいろいろなサンプルを示していただきながら、わかりやすく解説してもらいました。

その後10分間の休憩があり、今度は「手漉きで紙を漉いてみよう」と実技を実施。約30分間にわたって実際に紙を漉く作業に挑戦しました。うまく漉けた人、漉けなかった人、さまざまでしたが、紙の大切さや、いかにたくさんの水を必要とするかがよくわかりました。

実技が終わって席に戻り、質疑応答の時間に入ると、今回は遠く長野や新潟から参加された会員の方もお



写真上：紙の知識を学ぶ編集セミナーを開催
(日本紙パルプ商事2階大会議室)

写真下：紙を漉く実技を体験する参加者

り、時間を大幅に延長するほどたいへん活発な質問が続きました。

なおセミナー後は、日本紙パルプ商事から参加者全員に最新の紙見本が入った「JP書籍見本帳・各メーカーの書籍見本と紙の規格資料」をはじめ、編集業務に役立つ貴重な資料がプレゼントされ、参加者の皆さんはたいへん喜んでいました。

(教育委員長/小林哲夫)

Admission

正 株式会社ブレンプール

住所 〒164-0011 東京都中野区中央4丁目1-3 ポニーテ新中野ビル8F
TEL.03-3383-2791 FAX.03-3383-2893
代表者 代表取締役 小檜山範男
設立 1966年6月21日
社員数 8名
取引先 学研、小学館、祥伝社、世界文化社、東京法令出版、研秀出版、電通、博報堂、創芸、共同印刷、大日本印刷、シミセイ印刷、積水ハウスほか
特徴 出版社の単行本、雑誌、広告代理店や印刷会社の販促媒体、企業・団体等の機関誌紙、PR誌、社内報等の企画・編集制作・デザイン、DTPまで一貫して手がけています。

新入会員社紹介

準 有限会社南雲デザイン

住所 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-21-6 東急スカイライン51
TEL.03-3461-1610 FAX.03-3461-1615
代表者 代表取締役 南雲美恵
設立 1980年4月1日
社員数 6名
取引先 丹青社、ムラヤマ、オフィス201、朝日広告、こうげい、電通ファシリマティマネジメント、MIHO MUSEUM、ちひろ美術館、東京大学総合研究博物館ほか
特徴 広告・出版グラフィックデザインのみにとどまらず、空間デザイン・展示グラフィックの企画から制作まで、幅広いテイストでハイクオリティなデザインを提供します。

「正」は正会員、「賛」は賛助会員、「準」は準会員

準 株式会社エスオーエー・コミュニケーションズ

住所 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1-3 共同新小伝馬町ビル5F
TEL.03-3662-2120 FAX.03-5645-5386
代表者 代表取締役 橋口啓一
設立 1985年2月15日
社員数 8名
取引先 NTT、NTT出版、PHP研究所、日本大学商学部、ヒラタ、リバース東京ほか
特徴 会社案内、PR誌、社内報、単行本の企画・執筆・編集制作、Web、広告の企画制作、編集事務支援パッケージソフトの開発とASP事業などを業務内容とし「すぐ・必ず・できるまでやる」をモットーにしています。
URL <http://www.soa.co.jp/>

Activities

デジタル部会

7
30

デジタルコンテンツを制作する会社の組織であるデジタル部会が、7月30日午後6時から開催されました。今回は勉強会である第1部と、懇親を目的にした第2部で構成され、第1部は千代田区西神田にある三松堂印刷(株)の会議室で、社団法人日本印刷技術協会(JAGAT)研究調査部参事の相馬謙一氏をゲストに迎え、めまぐるしく変化するDTP業界やプリプレス・印刷技術の最新動向をレクチャーしてもらいました。また、それをふまえてPDFデータの活用やXML、DBP、CTPなどのデジタル新技術の動

きについて話し合いました。

その後、近くにある料理屋「まめや」に席を移し、第2部の懇親会を開催。相馬氏への活発な質問も含めて、お互いの活動報告や情報交換を中心に終始なごやかな雰囲気です。



三松堂印刷(株)の会議室で行われたデジタル部会

秋の親睦ゴルフコンペ

9
16

恒例のAJEC親睦ゴルフコンペが9月16日、栃木県栃木市にあるプレステージカントリークラブ・東コースで行われました。AJEC親睦ゴルフコンペは毎年春と秋の2回開催され、今回で通算33回目を数えます。当日は絶好のゴルフ日和に恵まれ、4組15名が参加。優勝はネット73(グロス83、HC10)で回った坂本宜男氏(株)メイテック、準優勝はネット75(グロス85、HC10)の遠田潔氏(株)暁和、3位はネット76(グロス86、HC10)の小原好春氏(株)アイフィス)でした。

企業出版部会

9
10

9月10日午後6時半から、東京・神田錦町の「ふくるる」で企業出版部会が開催されました。当日は部会長の高雄宏政氏(株)高雄宏政事務所)や副部会長の福田光洋氏(株)エフビーアイ・コミュニケーションズ)をはじめ、20名近くが参加。企業出版部会は懇親を旨としており、今回も新入会員社の紹介や参加者の近況報告などがあつたほかは、隣同士などで雑談を交わし、終始和気藹々とした雰囲気に包まれました。



和気藹々とした雰囲気に包まれた企業出版部会

アドビユーザーサミット

9
16

日本編集制作会社協会が後援・協力した「Adobe User Summit~Vol.1 In Design~」が、9月16日午後5時から東京・青山テピア4階のTEPIAホールで開催され定員100名に対し150名以上が参加しました。これはアドビシステムズ(株)が主催する初めてのInDesignユーザー向けの催しで、Adobe InDesignを活用している出版社や業界の方々の講演と交流を目的としています。

今回は、自らWebサイト「InDesignの勉強部屋」を開設している(有)ザッツの森氏をはじめ、当協会会員の(株)エディット編集部(株)藤原氏、ニ玄社カーグラフィック編集部の町田氏、(株)THINKS NEOの大里氏など、Adobe InDesignを活用している編集者たちが講演し、そのあと午後7時からInDesignユーザー同士の交流・語らいの場として、懇親パーティーが開かれました。

教材部会

9
29

学校や塾、家庭で使われる学習教材、塾教材、学習参考書などの企画編集を専門に行っている会員社の集団である教材部会が、9月29日(水)午後6時から東京・神田錦町の「ふくるる」で開催されました。今年1月以来、久しぶりの部会開催とあって、部会長の橋本紀子氏(株)美和企画)をはじめ多くの会員が参加。懐かしい面々とこれまで以上に活発な情報交換を行い、今後につながる有意義な部会となりました。

ご意見・ご要望をお聞かせください

日本編集制作会社協会では皆様のご意見を反映し、会報「ニューズレター AJEC」をさらに充実させていきたいと考えております。本誌に関するご意見・ご要望がございましたら、何なりと下記までご連絡ください。(広報委員長/高雄宏政)

TEL: 03-3496-0121 FAX: 03-3464-6944
E-mail: office@ajec.com

事務局だより

来る10月22日午後1時から日本出版クラブ会館で、組織委員会と教育委員会の共催による「AJEC・秋の全国研修会 in 東京」を開催します。今年から地方部会が組織委員会の中で活動することになったため、今回の研修会は地方の会員の方々を意識した内容になっています。また新規会員社を拡大したいという目的も

あり、非会員社の方々にも参加を呼びかけています。「秋の全国研修会」の概略は以下のとおりです。

◆第一部：講演「出版社は外注編集費をどう決めているのか」

◆第二部：分科会 A「フリーペーパーの新しい展開」 B「地方の出版社が向かう道」 C「出版流通の現況」

◆第三部：小学館や幻冬舎の第一線の編集者をお招きした講演会

研修会終了後には同会場で懇親会も予定されています。詳細については事務局よりFAXした案内状、または協会ホームページをご覧ください。なお当研修会は好評につき定員となりましたので、申し込みを締め切っております。